インストールと初期設定

この章では、Cisco 3375 Appliance for Cisco Connected Mobile Experiences の初期の設置および設定の方法について説明します。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- ラックに関する警告 （1 ページ）
- Cisco CMX 3375 の開梱と点検 （2 ページ）
- Cisco CMX 3375 アプライアンスの設置の準備 （2 ページ）
- Cisco CMX 3375 のラックへの取り付け （5 ページ）
- 初期設定 （10 ページ）
- NIC モード （16 ページ）
- CMX ソフトウェアの設定 （16 ページ）
- BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新 （18 ページ）
- システム BIOS へのアクセス （19 ページ）
- Serial over LAN （19 ページ）
- スマート アクセス（シリアル） （20 ページ）
- スマート アクセス（USB） （20 ページ）

ラックに関する警告

警告 ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。次のガイドラインは、安全に作業を行ってもらうために用意してあります。 **（1）この装置は、ラックに 1 つだけの場合は、一番下に搭載するようにしてください。（2）ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。（3）ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックへの装置の設置やラック内の装置の保守を行ってください。ステートメント 1006**

⚠

注意 ラックを荷降ろしするときは、怪我や装置の破損を防止するため、2 人以上で安全にパレットからラックを降ろす必要があります。

⚠

注意 破損防止のため、水分や過度の湿気が Cisco CMX に入り込まないようにしてください。

Cisco CMX 3375 の開梱と点検

シャーシは厳密に検査したうえで出荷されています。輸送中の破損や内容品の不足がある場合には、ただちにカスタマー サービス担当者に連絡してください。

Cisco CMX 3375 アプライアンスを開梱するには、次の手順に従ってください。

始める前に

内部Cisco CMX 3375 アプライアンスのコンポーネントを取り扱うときは、静電気防止用ストラップを着用し、モジュールのフレームの端のみを持つようにしてください。

ステップ 1 段ボール箱から Cisco CMX 3375 アプライアンスを取り出します。梱包材はすべて保管しておいてください。

（注） Cisco CMX 3375 アプライアンスの輸送が必要となる場合に備えて、輸送用の箱は保管しておいてください。

ステップ 2 破損の有無を調べ、内容品の間違いや破損がある場合には、カスタマー サービス担当者に連絡してください。次の情報を用意しておきます。

- 発送元の請求書番号（梱包明細を参照）
- 破損したユニットのシリアル番号
- 破損の説明
- 破損による設置への影響

Cisco CMX 3375 アプライアンスの設置の準備

ここでは、Cisco CMX 3375 アプライアンスの設置準備について説明します。この項の内容は次のとおりです。

設置に関する警告およびガイドライン

（注） サーバの設置、操作、または保守を行う前に、『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco UCS C-Series Servers』を参照して重要な安全情報を確認してください。

警告 安全上の重要な注意事項

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。

ステートメント 1071

警告 システムの過熱を防ぐため、最大推奨周囲温度の **35°C** （**95°F**） を超えるエリアで操作しないでください。

ステートメント 1047

警告 いつでも装置の電源を切断できるように、プラグおよびソケットにすぐ手が届く状態にしておいてください。

ステートメント 1019

警告 この製品は、設置する建物に短絡（過電流）保護機構が備わっていることを前提に設計されています。この保護装置の定格が **250 V**、**15 A** 以下であることを確認します。

ステートメント 1005

警告 装置は地域および国の電気規則に従って設置する必要があります。

ステートメント 1074

警告 **この装置は、立ち入りが制限された場所への設置を前提としています。立ち入りが制限された場所とは、特殊な器具、錠と鍵、またはその他の保安手段を使用しないと入れない場所を意味します。**

ステートメント 1017

注意 サーバを取り付ける際は、適切なエアーフローを確保するために、レールキットを使用する必要があります。レールキットを使用せずに、ユニットを別のユニットの上に物理的に置く、つまり「積み重ねる」と、サーバの上部にある通気口がふさがれ、過熱したり、ファンの回転が速くなったり、電力消費が高くなったりする原因となる可能性があります。サーバをラックに取り付けるときは、これらのレールによりサーバ間で必要な最小の間隔が提供されるので、レール キットにサーバをマウントすることを推奨します。レール キットを使用してユニットをマウントする場合は、サーバ間の間隔を余分にとる必要はありません。

注意 鉄共振技術を採用している無停電電源装置（UPS）は使用しないでください。このタイプの UPS は、Cisco UCS などのシステムに使用すると、データ トラフィック パターンの変化によって入力電流が大きく変動し、動作が不安定になるおそれがあります。

サーバを設置する際には、次のガイドラインに従ってください。

- サーバを設置する前に、設置場所の構成を計画し、設置環境を整えます。設置場所を計画する際に推奨される作業については、『Cisco UCS Site Preparation Guide』を参照してください。
- サーバの周囲に、サーバへのアクセスおよび適切な通気のための十分なスペースがあることを確認します。サーバ内では前面から背面へ空気が流れます。
- 空調が、環境仕様に記載された温度要件に適合していることを確認します。
- キャビネットまたはラックが、ラックに関する要件 （4 ページ）に記載された要件に適合していることを確認します。
- 設置場所の電源が、電力仕様に記載された電源要件に適合していることを確認します。使用可能な場合は、電源障害に備えて無停電電源装置（UPS）を使用してください。

ラックに関する要件

次のタイプのラックを使用する必要があります。

- 標準的な 19 インチ（48.3 cm）幅 4 支柱 EIA ラック（ANSI/EIA-310-D-1992 のセクション 1 に準拠した英国ユニバーサル ピッチに適合するマウント支柱付き）。

- 付属のシスコ製スライド レールを使用する場合、ラック支柱の穴は、9.6 mm（0.38 インチ）の正方形、7.1 mm（0.28 インチ）の丸形、#12-24 UNC、または #10-32 UNC になります。
- サーバあたりの縦方向の最小ラック スペースは、1 ラック ユニット（RU）、つまり 44.45 mm（1.75 インチ）である必要があります。

サポートされるシスコ製スライド レール キット

サーバは、次のレール キット オプションをサポートします。

- シスコ製品 UCSC-RAILB-M4=（ボールベアリング スライド レール キット）。
- シスコ製品 UCSC-RAILF-M4=（フリクション スライド レール キット）。
- シスコ製品 UCSC-CMAF-M4=（ケーブル マネジメント アーム）

ラックの設置に必要な工具

シスコが販売するこのサーバ用のスライド レールの場合、設置に必要な工具はありません。

スライド レールおよびケーブル マネジメント アームの寸法

このサーバのスライド レールの調整範囲は 24 ～ 36 インチ（610 ～ 914 mm）です。

オプションのケーブル マネジメント アーム（CMA）を使用する場合、長さの要件がさらに追加されます。

- サーバの背面から CMA の背面までの距離は、137.4 mm（5.4 インチ）追加されます。
- CMA を含むサーバの全長は 35.2 インチ（894 mm）です。

Cisco CMX 3375 のラックへの取り付け

この項では、シスコが販売するラック キットを使用して、サーバをラックに取り付ける方法について説明します。

警告 ラックへのユニットの設置や、ラック内のユニットの保守作業を行う場合は、負傷事故を防ぐため、システムが安定した状態で置かれていることを十分に確認してください。安全を確保するために、次のガイドラインを守ってください。

ラックに設置する装置が 1 台だけの場合は、ラックの一番下に取り付けます。

ラックに複数の装置を設置する場合は、最も重い装置を一番下に設置して、下から順番に取り付けます。

ラックにスタビライザが付いている場合は、スタビライザを取り付けてから、ラックに装置を設置したり、ラック内の装置を保守したりしてください。

ステートメント 1006

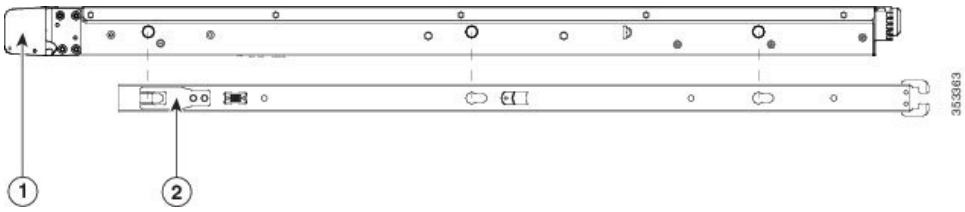
ステップ 1 サーバの側面に内側レールを装着します。

a) レール内の 3 つのキー付きスロットがサーバ側面の 3 個のペグの位置に合うように、内側レールをサーバの一方の側の位置に合わせます。

b) キー付きスロットをペグに設定し、レールを前面に向けてスライドさせて、ペグの所定の位置にロックします。前面スロットには、前面ペグにロックするための金属製クリップがあります。

c) 2 つ目の内側レールをサーバの反対側に取り付けます。

図 *1*: サーバ側面への内側レールの取り付け

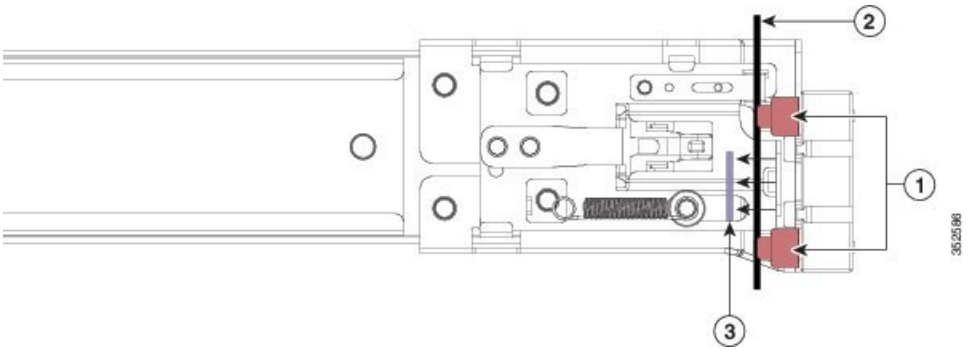


1	サーバの前面	**2**	内側レール前面のロッキング クリップ

ステップ 2 両方のスライド レール部品で前面の固定プレートを開きます。スライド レール部品の前端に、バネ仕掛けの固定プレートがあります。取り付けペグをラック支柱の穴に挿入する前に、この固定プレートが開いている必要があります。

部品の外側で、背面を向いている緑色の矢印ボタンを押して、固定プレートを開きます。

図 *2*：前面の固定部分、前端の内側



1	前面側の取り付けペグ	**3**	開いた位置に引き戻された固定プレート
2	取り付けペグと開いた固定プレートの間のラック支柱	-	

ステップ 3 外側のスライド レールをラックに取り付けます。

a) 片側のスライド レール部品の前端を、使用する前面ラック支柱の穴の位置に合わせます。

スライド レールの前部が ラック支柱の外側を回り込むように配置され、取り付けペグが外側の前部からラック支柱の穴に入ります。

（注） ラック支柱は、取り付けペグと開いた固定プレートの間にある必要があります。

b) 取り付けペグを、外側前面からラック支柱の穴に押し込みます。

c) 「PUSH」のマークが付いた固定プレートのリリース ボタンを押します。ばね仕掛けの固定プレートが閉じて、ペグが所定の位置にロックされます。

d) スライド レールの長さを調整したら、背面取り付けペグを対応する背面ラック支柱の穴に差し込みます。スライド レールは前面から背面に向かって水平である必要があります。

背面取り付けペグを、ラック支柱の内側から背面ラック支柱の穴に入れます。

e) 2 つ目のスライド レール部品を、ラックの反対側に取り付けます。2 つのスライド レール部品が同じ高さであり、水平になっていることを確認します。

f) 所定の位置に収まって留まるまで、各部品の内側のスライド レールをラック前方へ引き出します。

ステップ 4 サーバを次のようにスライド レールに装着します。

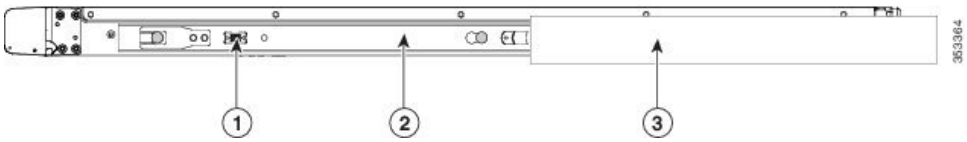
注意 このサーバは、コンポーネントがフルに搭載されている場合、最大で 27 kg（60 ポンド）の重量になります。サーバを持ち上げるときは、2 人以上で行うか、リフトを使用することを推奨します。この手順を 1 人で実行しようとすると、怪我や機器の損傷を招くおそれがあります。

a) サーバの側面に装着されている内側レールの後端を、ラック上の空のスライド レールの前端の位置に合わせます。

b) 内部の停止位置で止まるまで、内側レールをラック上のスライド レールに押し込みます。

c) 両方の内側レールで内側レール リリース クリップを背面に向けてスライドさせたら、前面のスラムラッチがラック支柱に収まるまで、サーバをラックに押し込みます。

図 *3:* 内側レール リリース クリップ



1	内側レール リリース クリップ	**3**	ラック支柱に装着されている外側スライド レール
2	サーバに装着され、外側のスライド レールに挿入されている内側レール	**-**	

ステップ 5 （任意）スライド レールに付属の 2 本のネジを使用して、サーバをさらに確実にラックに固定します。サーバを取り付けたラックを移動する場合は、この手順を実行します。

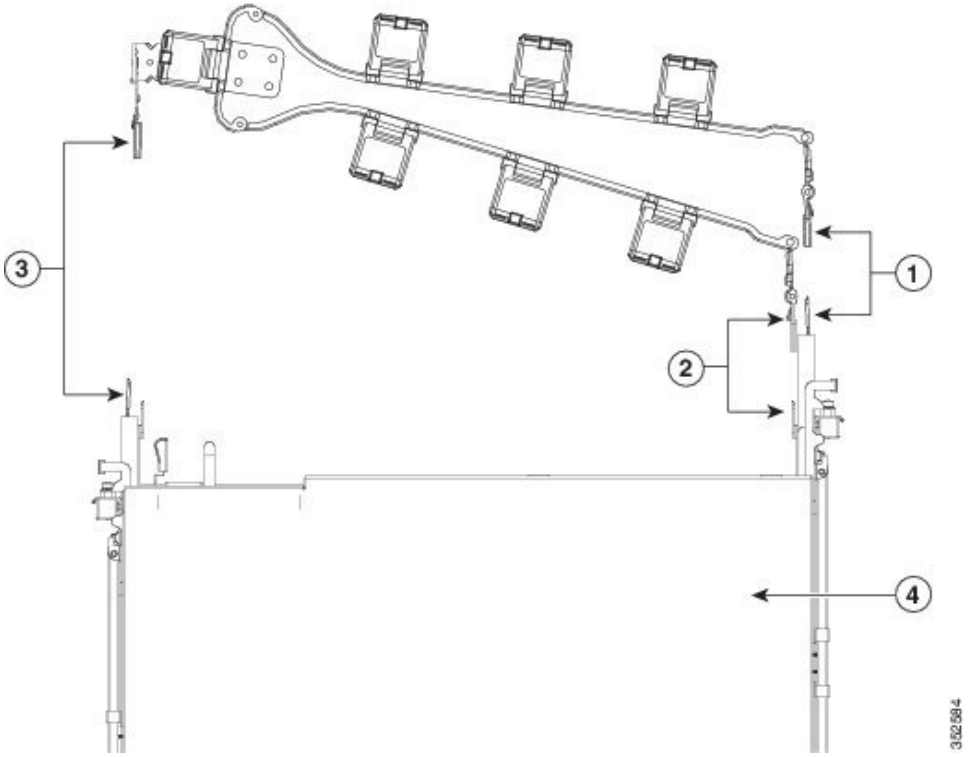
サーバをスライド レールに完全に押し込んだ状態で、サーバ前面のヒンジ付きスラム ラッチのレバーを開き、レバーの下にある穴からネジを挿入します。ネジがラック支柱のレールの静止部分に挿入され、サーバが引き抜かれるのを防ぎます。反対のスラム ラッチについても行ってください。

ケーブル マネジメント アームの取り付け（任意）

（注） ケーブルマネジメントアーム（CMA）は、左右を逆にして取り付けることができます。CMA を逆に取り付けるには、取り付ける前にケーブルマネジメントアームを逆に取り付け（任意）（10 ページ） を参照してください。

ステップ 1 サーバをラックに完全に押し込んだ状態で、サーバから最も離れた CMA アームの CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライド レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

図 *4*：スライド レール後端への ***CMA*** の取り付け



1	サーバから最も離れたアームの CMA タブは、外側の固定スライド レールの終端に取り付けます。	**3**	幅調整スライダのCMAタブは、外側の固定スライドレールの終端に取り付けます。
2	サーバに最も近いアームの CMA タブは、サーバに装着された内側のスライド レールの終端に取り付けます。	**4**	サーバ背面

ステップ 2 サーバに最も近い CMA タブを、サーバに取り付けられている内側レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

ステップ 3 CMA アセンブリの反対側の終端にある幅調整スライダを、ラックの幅まで引き出します。

ステップ 4 幅調整スライダの終端にある CMA タブを、ラック支柱に取り付けられている固定スライド レールの終端に押し込みます。カチッと音がしてロックされるまで、タブをレールの終端にスライドさせます。

ステップ 5 各プラスチック製ケーブル ガイドの上部でヒンジ付きフラップを開き、必要に応じてケーブル ガイドを通してケーブルを配線します。

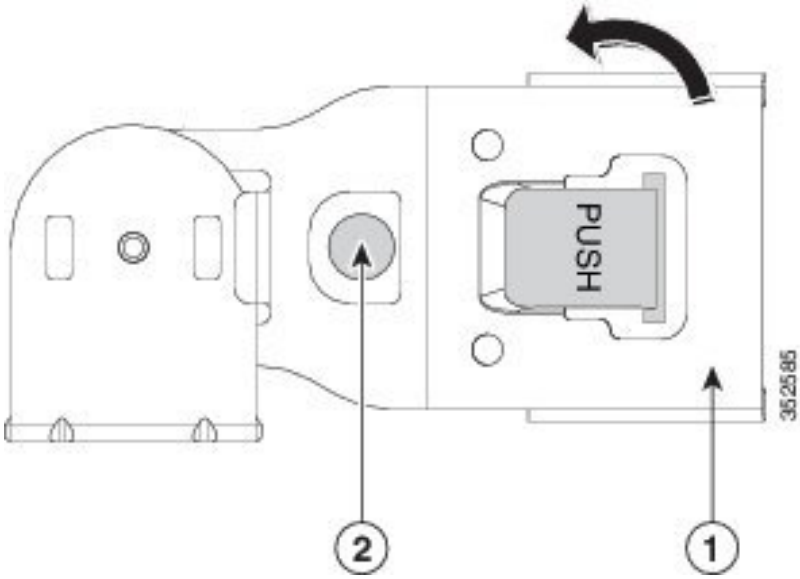
ケーブル マネジメント アームを逆に取り付け（任意）

ステップ 1 CMA アセンブリ全体を、左から右へ 180 度回転させます。プラスチック製ケーブル ガイドは、上を向いたままにしておく必要があります。

ステップ 2 サーバの背面を向くように、CMA アームの終端でタブを反転させます。

ステップ 3 幅調整スライダの終端にあるタブを回転させます。タブの外側の金属ボタンを長押しし、サーバの背面を向くようにタブを 180 度回転させます。

図 *5: CMA* の反転



1	幅調整スライダの終端の CMA タブ	**2**	タブの外側の金属ボタン

初期設定

（注） ここでは、デバイスをスタンドアロン モードで使用する場合の Cisco CMX 3375 アプライアンスの電源投入方法、IP アドレスの割り当て方法、サーバ管理への接続方法について説明します。

サーバのデフォルト設定

Cisco CMX 3375 アプライアンスは次のデフォルト設定で出荷されます。

- NIC モードは [Dedicated] です。

- NIC 冗長化は [None] です。専用管理ポートのみが使用されます。
- DHCP は有効になっています。
- IPv4 は有効です。

接続方法

システムに接続して初期設定を行うには、次の 2 つの方法があります。

- ローカル設定：キーボードとモニタをシステムに直接接続して設定を行う場合は、この手順を使用します。この手順では、KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）またはサーバの背面にあるポートが使用できます。
- リモート設定：専用管理 LAN 経由で設定を行う場合は、この手順を使用します。

（注） システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバ ノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセット タグにあるラベルに印字されています。このサーバ ノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ローカル接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- VGA モニタ
- USB キーボード
- サポートされている Cisco KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）、または USB ケーブルと VGA DB-15 ケーブル

ステップ 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ 2 次のいずれかの方法を使用して、USB キーボードと VGA モニタをサーバに接続します。

- オプションの KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）を前面パネルの KVM コネクタに接続します。USB キーボードと VGA モニタを KVM ケーブルに接続します。

- USB キーボードと VGA モニタを背面パネルの対応するコネクタに接続します。

ステップ 3 Cisco IMC 設定ユーティリティを開きます。

a) 前面パネルの電源ボタンを 4 秒間長押しして、サーバを起動します。

b) ブートアップ時に、Cisco IMC 設定ユーティリティを開くよう求められたら **F8** を押します。

（注） Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルト パスワードは *password* です。強力なパスワード機能を有効にします。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
  - 大文字の英字（A ～ Z）
  - 小文字の英字（a ～ z）
  - 10 進数の数字（0 ～ 9）
  - Non-alphabetic characters !, @、#、$、%、^、&、*、-、_、="

ステップ 4 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ （14 ページ）に進みます。

リモート接続によるサーバの設定

この手順には、次の機器が必要です。

- 管理 LAN に接続された RJ-45 イーサネット ケーブル X 1。

始める前に

（注） システムをリモートで設定するには、システムと同じネットワーク上に DHCP サーバが存在する必要があります。このサーバ ノードの MAC アドレスの範囲を、DHCP サーバにあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスは、前面パネルの引き抜きアセット タグにあるラベルに印字されています。このサーバ ノードでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

ステップ 1 電源コードをサーバの各電源装置に接続し、次に、接地された電源コンセントに各コードを接続します。

初回のブート時には、サーバが起動してスタンバイ電源モードになるまでに約 2 分かかります。システムの電源ステータスは、前面パネルのシステムの電源ステータス LED で確認できます。LED がオレンジの場合、サーバはスタンバイ電源モードです。

ステップ 2 管理イーサネット ケーブルを背面パネルの専用管理ポートに差し込みます。

ステップ 3 事前設定された DHCP サーバで、サーバ ノードに IP アドレスを割り当てられるようにします。

ステップ 4 割り当てられた IP アドレスを使用して、サーバ ノードの Cisco IMC にアクセスし、ログインします。IP アドレスを特定するには、DHCP サーバの管理者に相談してください。

（注） サーバのデフォルトのユーザ名は *admin*、デフォルト パスワードは *password* です。

ステップ 5 Cisco IMC サーバの [Summary] ページで、[Launch KVM Console] をクリックします。別の KVM コンソール ウィンドウが開きます。

ステップ 6 Cisco IMC の [Summary] ページで、[Power Cycle Server] をクリックします。システムがリブートします。

ステップ 7 KVM コンソール ウィンドウを選択します。

（注） 次のキーボード操作を有効にするには、KVM コンソール ウィンドウがアクティブ ウィンドウである必要があります。

ステップ 8 プロンプトが表示されたら、F8 を押して、Cisco IMC 設定ユーティリティを起動します。このユーティリティは、KVM コンソール ウィンドウで開きます。

（注） Cisco IMC 設定ユーティリティを初めて開始すると、デフォルトのパスワードの変更を要求するプロンプトが表示されます。デフォルトパスワードは *password* です。強力なパスワード機能を有効にします。

強力なパスワードの要件は、次のとおりです。

- パスワードは最低 8 文字、最大 14 文字とすること。
- パスワードにユーザ名を含めないこと。
- パスワードには次の 4 つのカテゴリの中から 3 つに該当する文字を含めること。
  - 大文字の英字（A ～ Z）
  - 小文字の英字（a ～ z）
  - 10 進数の数字（0 ～ 9）
  - Non-alphabetic characters !, @、#、$、%、^、&、*、-、_、="

ステップ 9 Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ （14 ページ）に進みます。

Cisco IMC 設定ユーティリティを使用したシステムのセットアップ

始める前に

システムに接続して Cisco IMC 設定ユーティリティを開いた後に、次の手順を実行します。

ステップ 1 NIC モードを設定して、サーバ管理用の Cisco IMC へのアクセスに使用するポートを選択します。

- [Shared LOM EXT]：共有 LOM 拡張モードです。このモードでは、Shared LOM インターフェイスと Cisco Card インターフェイスの両方がイネーブルです。次のステップで、NIC 冗長性設定にデフォルトの [Active-Active] を選択する必要があります。

  NIC モードでは、DHCP 応答が Shared LOM ポートと Cisco カード ポートの両方に返されます。サーバがスタンドアロン モードであるために、Cisco カード接続でその IP アドレスが Cisco UCS Manager システムから取得されないと判別された場合は、その Cisco カードからのその後の DHCP 要求はディセーブルになります。スタンドアロン モードで Cisco カードを介して Cisco IMC に接続する場合は、Cisco Card NIC モードを使用します。

- [Shared LOM]：Cisco IMC へのアクセスに 1 Gb/10 Gb イーサネット ポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。

- [Dedicated]（デフォルト）：Cisco IMC へのアクセスに専用管理ポートを使用します。工場出荷時のデフォルト設定です。次のステップで、NIC 冗長性設定に [None] を選択する必要があります。

- [Cisco Card]：Cisco IMC へのアクセスに取り付け済みの Cisco UCS 仮想インターフェイス カード（VIC）のポートを使用します。次のステップで、NIC 冗長性設定に [Active-Active] または [Active-standby] を選択する必要があります。

  必須の VIC スロットの設定も下記で参照してください。

- [VIC Slot]：Cisco Card NIC モードを使用する場合にのみ、VIC を取り付けた場所に合わせて、この設定を選択する必要があります。Riser1、Riser2、または Flex-LOM（mLOM スロット）のいずれかを選択します。

  - [Riser1] を選択した場合は、スロット 1 に VIC を取り付ける必要があります。
  - [Riser2] を選択した場合は、スロット 2 に VIC を取り付ける必要があります。
  - [Flex-LOM] を選択した場合は、mLOM スロットに mLOM タイプの VIC を取り付ける必要があります。

ステップ 2 必要に応じて、NIC 冗長性を設定します。このサーバでは、次の 3 つの NIC 冗長性設定を行うことができます。

- [None]（デフォルト）：イーサネット ポートは個別に動作し、問題が発生した場合にフェールオーバーを行いません。この設定は、専用 NIC モードでのみ使用できます。

- [Active-standby]：アクティブなイーサネット ポートに障害が発生した場合、スタンバイ ポートにトラフィックがフェールオーバーします。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。

- [Active-active]：すべてのイーサネット ポートが同時に使用されます。Shared LOM EXT モードでは、この NIC 冗長性設定のみを使用する必要があります。Shared LOM と Cisco Card モードでは、それぞれ [Active-standby] と [Active-active] の設定を使用できます。

ステップ 3 ダイナミック ネットワーク設定用に DHCP をイネーブルにするか、スタティック ネットワーク設定を開始するかを選択します。

（注） DHCP をイネーブルにするには、DHCP サーバにこのサーバの MAC アドレスの範囲をあらかじめ設定しておく必要があります。MAC アドレスはサーバ背面のラベルに印字されています。このサーバでは、Cisco IMC に 6 つの MAC アドレスの範囲が割り当てられています。ラベルに印字されている MAC アドレスは、6 つの連続 MAC アドレスのうち最初のものです。

静的 IPv4 および IPv6 設定には次が含まれます。

- Cisco IMC の IP アドレス。

  IPv6 の場合、有効な値は 1 ～ 127 です。

- ゲートウェイ。

  IPv6 の場合、ゲートウェイが不明な場合は、::（コロン 2 つ）を入力して none のままに設定することができます。

- 優先 DNS サーバ アドレス。

  IPv6 の場合、::（コロン 2 つ）を入力してこれを none のままに設定することができます。

ステップ 4 （任意）VLAN の設定を行います。

ステップ 5 F1 を押して 2 番目の設定ウィンドウに移動したら、次のステップに進みます。

2 番目のウィンドウで **F2** を押すと、最初のウィンドウに戻ることができます。

ステップ 6 （任意）サーバのホスト名を設定します。

ステップ 7 （任意）ダイナミック DNS をイネーブルにし、ダイナミック DNS（DDNS）ドメインを設定します。

ステップ 8 （任意）[Factory Default] チェックボックスをオンにすると、サーバは出荷時の初期状態に戻ります。

ステップ 9 （任意）デフォルトのユーザ パスワードを設定します。

（注） サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

ステップ 10 （任意）ポート設定の自動ネゴシエーションをイネーブルにするか、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定します。

（注） 自動ネゴシエーションは専用 NIC モードを使用する場合にのみ使用できます。自動ネゴシエーションはサーバが接続されているスイッチ ポートに基づいて自動的にポート速度およびデュプレックス モードを設定します。自動ネゴシエーションをディセーブルにした場合、ポート速度およびデュプレックス モードを手動で設定する必要があります。

ステップ 11 （任意）ポート プロファイルとポート名をリセットします。

ステップ 12 F5 を押して、行った設定に更新します。新しい設定が表示され、メッセージ「Network settings configured」が表示されるまでに約 45 秒かかる場合があります。その後、次の手順でサーバを再起動します。

ステップ 13 F10 を押して設定を保存し、サーバを再起動します。

（注） DHCP のイネーブル化を選択した場合、動的に割り当てられた IP アドレスと MAC アドレスがブートアップ時にコンソール画面に表示されます。

次のタスク

ブラウザと Cisco IMC の IP アドレスを使用して、Cisco IMC 管理インターフェイスに接続します。IP アドレスは、行った設定に基づいています（スタティック アドレスまたは DHCP サーバによって割り当てられたアドレス）。

（注） サーバのデフォルトのユーザ名は *admin* です。デフォルト パスワードは *password* です。

NIC モード

Cisco CMX 3375 アプライアンスには次の NIC モードの設定があります。

- Dedicated：Cisco Integrated Management Controller（CIMC）へのアクセスには、専用の管理ポートが使用されます。これは、Cisco CMX 3375 アプライアンス出荷時のデフォルト モードです。CIMC アクセス用の IP アドレスを設定する必要があります。

CMX ソフトウェアの設定

Cisco CMX 3375 アプライアンス上に Cisco CMX 10.5.1 ソフトウェアを展開する必要があります。Cisco CMX の最小限の設定は、コンソールを使用したインストールの一環として実行されます。

ステップ 1 Cisco.com の『Download Software』から Cisco CMX 10.5.1 イメージをダウンロードします。

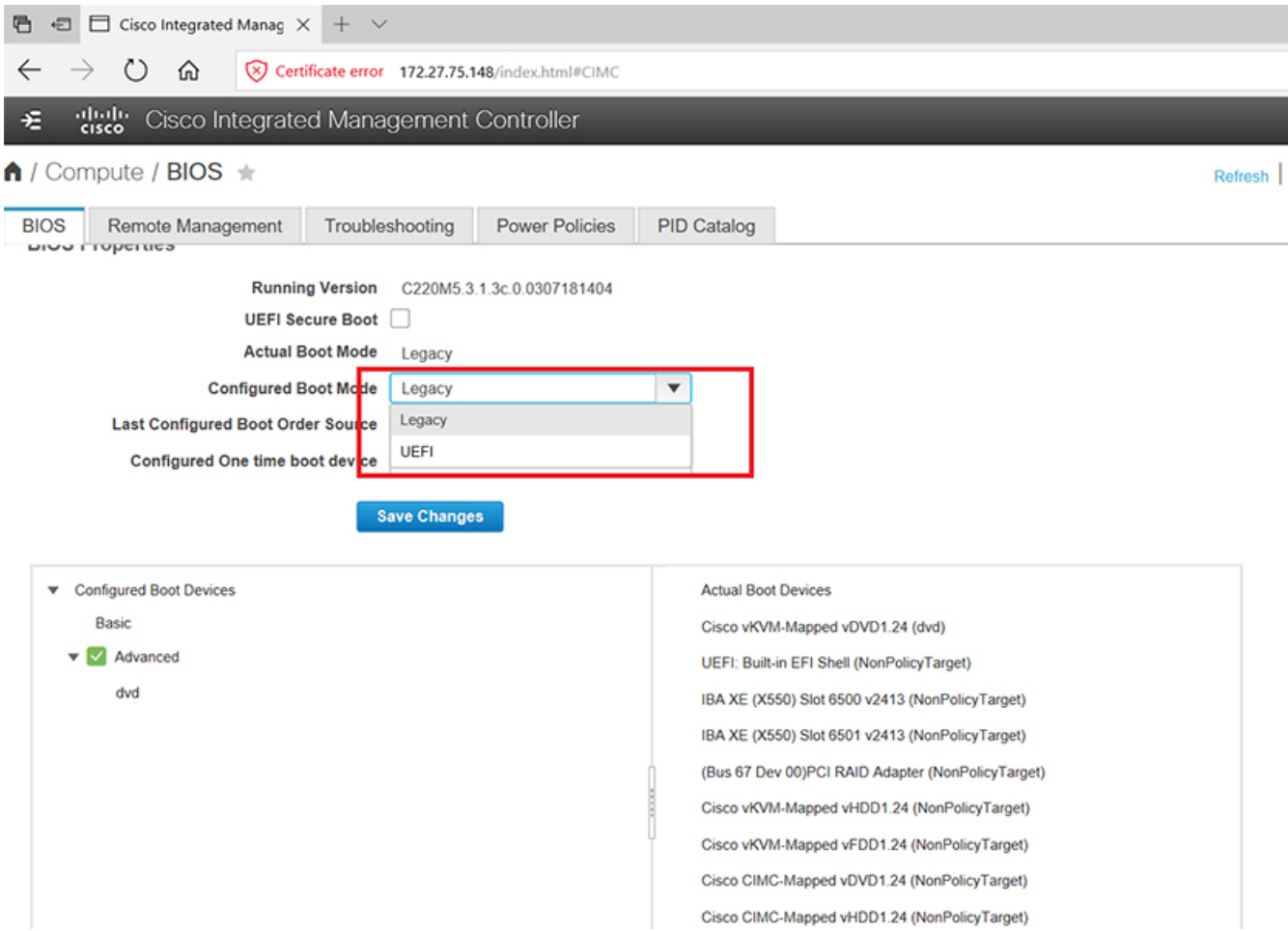
ステップ 2 3375 アプライアンスの電源を投入し、CIMC IP アドレスとユーザ クレデンシャルを設定します。

ステップ 3 Internet Explorer を使用して CIMC IP にログインします。

ステップ 4 左側のペインで、[Menu] > [Compute] > [BIOS] をクリックします。

ステップ 5 [Configured Boot Mode] ドロップダウン リストから、[Legacy] を選択します。

図 6 : *[BIOS]* タブの *[Configured Boot Mode]* ドロップダウン リスト



ステップ 6 画面の指示に従ってシステムを再起動します。

ステップ 7 [Configure Boot Order] をクリックします。

ステップ 8 [Configure Boot Order] ウィンドウで、[Advanced] タブをクリックします。

ステップ 9 [Add Virtual Media] をクリックします。

ステップ 10 新しい仮想メディアの名前を入力します。

ステップ 11 [Sub Type] ドロップダウン リストから、[KVM MAPPED DVD] を選択します。

ステップ 12 [Save Changes] をクリックします。

新しい仮想メディアが作成され、有効になります。

ステップ 13 IE を使用して、KVM を開きます。結果がより一貫したものになるよう、IE または Firefox 上で JAVA ベースの KVM を使用することをお勧めします。

ステップ 14 [Virtual Media] > [Activate Virtual Devices] の順にクリックします。

ステップ 15 [Map CD/DVD] をクリックし、ローカル フォルダからイメージを選択します。

ステップ 16 KVM で、[Power] オプションを使用して Cisco CMX 3375 アプライアンスに電源を投入します。

ステップ 17 アプライアンスが再起動したら、F6 キーを押して [Boot Menu] を表示します。

ステップ 18 [Cisco vKVM Mapped DVD] を選択します。

ステップ 19 インストール方法として、[Install using Current Console] を選択します。

ステップ 20 [Proceed with install] をクリックします。CMX ファイルがコピーされるまで 20 ～ 30 分待ちます。

ファイルがコピーされると、システムが再起動します。システムには、Centos 7 がロードされています。Cisco CMX の [Welcome] ウィンドウが表示されます。

BIOS および Cisco IMC のファームウェアの更新

⚠

注意 BIOS ファームウェアをアップグレードする場合、Cisco IMC ファームウェアも同じバージョンにアップグレードする必要があります。アップグレードしないと、サーバが起動しません。BIOS と Cisco IMC のファームウェアが一致するまで電源をオフにしないでください。オフにすると、サーバが起動しなくなります。

シスコは、BIOS、Cisco IMC、およびその他のファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードできるよう支援するために、*Cisco Host Upgrade Utility* を提供しています。

サーバには、シスコが提供し、承認しているファームウェアが使用されています。シスコは、各ファームウェア イメージと共にリリース ノートを提供しています。ファームウェアを更新するには、いくつかの方法があります。

- **ファームウェアの更新に推奨される方法**：Cisco Host Upgrade Utility を使用して、Cisco IMC、BIOS、およびコンポーネントのファームウェアを互換性のあるレベルに同時にアップグレードします。

  ファームウェア リリースについては、下記のマニュアル ロードマップ リンクにある『*Cisco Host Upgrade Utility Quick Reference Guide*』を参照してください。

- Cisco IMC の GUI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

  『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server Configuration Guide*』を参照してください。

- Cisco IMC の CLI インターフェイスを使用して Cisco IMC と BIOS ファームウェアをアップグレードできます。

  『*Cisco UCS C-Series Rack-Mount Server CLI Configuration Guide*』を参照してください。

上記のドキュメントへのリンクについては、『Cisco UCS C-Series Documentation Roadmap』を参照してください。

システム BIOS へのアクセス

ステップ 1 ブート中にメッセージが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップ ユーティリティに切り替えます。

（注） このユーティリティの [Main] ページに、現在の BIOS のバージョンとビルドが表示されます。

ステップ 2 矢印キーを使って、BIOS メニュー ページを選択します。

ステップ 3 矢印キーを使って、変更するフィールドを反転表示にします。

ステップ 4 Enter キーを押して変更するフィールドを選択し、そのフィールドの値を変更します。

ステップ 5 Exit メニュー画面が表示されるまで右矢印キーを押します。

ステップ 6 Exit メニュー画面の指示に従って変更内容を保存し、セットアップ ユーティリティを終了します（または、F10 を押します）。Esc キーを押すと、変更内容を保存せずにユーティリティを終了できます。

Serial over LAN

Cisco CMX 3375 アプライアンスは、Serial over LAN（SOL）機能をサポートしています。

SOL はデフォルトで有効になっています。Cisco CMX 3375 アプライアンスのコンソールにアクセスするには、通常、KVM コンソールや SOL 対応の CIMC コンソールを使用します。アプライアンスへの物理シリアル ケーブル接続（背面の RJ-45 シリアル コネクタまたは前面の KVM ケーブルを介した DB-9 接続のいずれか）を使用すると、端末への出力が正しく表示されず、代わりに「ÿæÿëÎÿïÿûëÿß」のようなランダムな文字が表示される可能性があります。これが発生する一般的な原因は、SOL が誤ったポート（通常は [com0]）に設定されていることです。一部の設定では、ボー レートを 9600 bps まで下げることが必要となる場合があります。

Cisco IMC CLI を使用してこの問題を回避するには、次のコマンドを同じ順序で実行します。

- **scope sol**
- **set comport com1**
- **set baud-rate 9600**
- **exit**
- **commit**

Cisco IMC GUI を使用してこの問題を回避するには、次の手順に従います。

ステップ 1 Cisco IMC にアクセスします。

ステップ 2 [Compute] > [Remote Management] > [Serial Over LAN] の順に選択します。

ステップ 3 [com port] を [com0] から [com1] に更新します。

ステップ 4 ボー レートの入力値を **115.2 kbps** から **9600 bps** に下げます。

スマート アクセス（シリアル）

この Cisco CMX 3375 アプライアンスは、スマート アクセス シリアル機能をサポートしています。この機能により、ホストのシリアルと Cisco IMC CLI を切り替えることができます。

（注） SOL は、SSH オプションでのみサポートされます。Telnet はサポートされていません。

- この機能には、次の要件があります。
  - サーバの背面パネルの RJ-45 シリアル コネクタ、または前面パネルの KVM コンソール コネクタで DB-9 接続（KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）を使用する場合）を使用することができる、シリアル ケーブル接続。
  - サーバの BIOS でコンソール リダイレクションを有効にする必要があります。
  - 端末タイプは、VT100+ または VTUFT8 に設定する必要があります。
  - Serial over LAN（SOL）を無効にする必要があります（SOL はデフォルトで有効になっています）。
- ホストのシリアルから Cisco IMC CLI に切り替えるには、Esc キーを押した状態で 9 キーを押します。

  接続を認証するために Cisco IMC クレデンシャルを入力する必要があります。
- Cisco IMC CLI からホストのシリアルに切り替えるには、Esc キーを押した状態で 8 キーを押します。

  （注） Serial over LAN（SoL）機能が有効になっている場合は、Cisco IMC CLI に切り替えることができません。
- セッションが作成されると、CLI または Web GUI に `serial` という名前で表示されます。

スマート アクセス（USB）

Cisco CMX 3375 アプライアンスは、スマート アクセス USB 機能をサポートしています。

このアプライアンスのボード管理コントローラ（BMC）は、大容量の USB ストレージ デバイスに対応しており、そのデータにアクセスすることができます。この機能では、前面パネルの USB デバイスをメディアとして使用して、ネットワーク接続を必要とせずに BMC とユーザ間

でデータを転送できます。これは、リモート BMC インターフェイスがまだ利用可能でない場合や、ネットワークの不良構成によりリモート BMC インターフェイスにアクセスできない場合などに役立ちます。

- この機能には、次の要件があります。
  - 前面パネルの KVM コンソール コネクタに接続された KVM ケーブル（Cisco PID N20-BKVM）。
  - KVM ケーブルのいずれかの USB 2.0 コネクタに接続された USB ストレージ デバイス。電流保護回路による切断を避けるため、USB デバイスの電流消費は 500 mA 未満である必要があります。

    （注） KVM ケーブルに接続されているマウスまたはキーボードは、スマート アクセス（USB）を有効にすると切断されます。

  - USB 3.0 ベースのデバイスを使用できますが、デバイスは USB 2.0 の速度で動作します。
  - USB デバイスには 1 つのパーティションのみを設定することをお勧めします。
  - サポートされているファイル システム形式は、FAT16、FAT32、MSDOS、EXT2、EXT3、および EXT4 です。NTFS はサポートされません。
- 前面パネルの KVM コネクタは、ホスト OS と BMC 間 で USB ポートを切り替えるように設計されています。
- スマート アクセス（USB）は、いずれかの BMC ユーザ インターフェイスを使用して有効または無効にすることができます。たとえば、ブートアップ中にメッセージが表示されたときに F8 を押すことにより、Cisco IMC 設定ユーティリティを使用できます。
  - 有効時：前面パネルの USB デバイスは BMC に接続されています。
  - 無効時：前面パネルの USB デバイスはホストに接続されています。
- 管理ネットワークを使用してリモートで Cisco IMC に接続できない場合は、シリアル ケーブルを介してデバイス ファームウェア アップデート（DFU）シェルを使用してテクニカル サポート ファイルを生成し、前面パネルの USB ポートに装着されている USB デバイスにダウンロードすることができます。